

# 『月刊生徒指導』のタイトル分析

## Research on Title Analysis of “GEKKAN SEITOSHIDO”

寺 町 晋 哉

本論文では、「生徒指導」に関する教育言説研究に着目し、二つの検討課題を設けた。第一に、「生徒指導に関する教育言説は何をテーマとして語られてきたのか」に関する全体像を俯瞰し、その変遷を明らかにする。第二に、生徒指導に関する教育言説を「女」、「男」の記述に着目して分析することで、「女/男」について「何が」語られているか、を明らかにする。

『月刊生徒指導』を分析してきた結果、以下のことが明らかとなった。第一に、『月刊生徒指導』において用いられる用語は、どの年代を通じても共通するものが存在する。ただし、扱われる用語は同じでも共起する語は異なっているため、テーマは異なっている可能性がある。また、各年代に特徴的であった用語も存在しており、年代ごとに着目されるテーマやトピックが存在することが示唆された。

第二に、『月刊生徒指導』において、「女」と「男」をテーマにしたものが多数存在し、両者を区別して論じながら、「女」が多く語られていることが明らかになった。男女問わず問題視される「非行」「いじめ」などのテーマも、わざわざ「女子」を冠にしたタイトルを設けている記事も存在する。「女」を別にして語るということは、「男」を語るものとの間に、なんらかの相違点が存在する可能性がある。そして、興味深いことに、1997年までは頻出していた「女」をテーマにした特集が一切なくなり、また、「女」をタイトルに含む記事もそれまでと比較すると減少している。

キーワード：生徒指導、『月刊生徒指導』、ジェンダー、教育言説

### 目 次

- I 問題設定
- II 分析対象及び分析手順
- III 『月刊生徒指導』のタイトル分析
- IV まとめ

## I 問題設定

教師—生徒間の相互作用に焦点をあてた「ジェンダーと教育」研究は、教師がジェンダー秩序の再生産の担い手であることを明らかにしてきた（木村 1999、氏原 1996、2003 など）。従来の「ジェンダーと教育」研究は、教師の教育実践が「いかにジェンダー不平等か」ということへ着目するあまり、ジェンダーの再生産という「結果」を非常に重視していた。そのため、教師がジェンダー・ステレオタイプな教育実践を行った文脈に焦点を当てることで、その背景にある教師のジェンダー観は、即時的な側面のみ取り扱われる傾向にあった。教師のジェンダー観は個人的要因によってのみ規定されるわけではなく、社会のジェンダー観や学校現場の文脈などにも影響を受ける。そうした外在的要因の一つに教育言説を挙げることができる。

今津（2010）が指摘するように、「教育言説」は、教師の実践の動機づけや指針に多大な影響力をもつ。したがって、ジェンダー・ステレオタイプに基づく教育課題への対応が声だけに叫ばれれば、それだけ教師の動機づけや指針にその対応が位置づけられ易いであろうし、反対に、教育言説において語られることが少なければ、教師もそうした対応を意識しないであろう。

教育言説とは、「教育に関する一定のまとまりをもった論述で、聖性が付与されて人々を幻惑させる力を持ち、教育に関する認識や価値判断の基本枠組みとなり、実践の動機づけや指針として機能するもの」（今津 2010、P.9）と定義される。今津は教育言説を検討する際に、6つの課題を提示している。

- ①一定の教育言説がいつごろ創出され、その創出者は誰であり、どのような期間や組織であったのか。
- ②それに対して批判的な見解を示し、さらにそれにとって代わって影響力を発揮しようとする「対抗言説」が、誰（何）によってどのように対置されたか。
- ③せめぎあう教育言説がどのようにしてメディアで取り上げられ、流通し広がっていったか。
- ④教育言説は、立法や行政、司法にいかなる影響力をもたらしたか。逆に、立法や行政、司法が教育言説の教義化にどうはたらいたか。
- ⑤教育言説は、どのような教育実践をどのように導き出したか。
- ⑥教育言説の「教義化」において、学問はいかなる役割を果たしたか、など

（今津 2010、p.10）

本論文では、今津の提示する①の課題に着目して分析を行う。「生徒指導」に関する教育言説研究は、今津ら（2010）などが見受けられるが、ジェンダーの視点から分析したものは多くない。そこで本論文は、二つの検討課題を設ける。第一に、「生徒指導に関する教育言説は何をテーマとして語られてきたのか」に関する全体像を俯瞰し、その変遷を明らかにする。第二に、生徒指導に関する教育言説を「女」「男」の記述に着目して分析することで、「女/男」について「何が」語られているのかを明らかにする。

## II 分析対象及び分析手順

上述の検討課題を明らかにするために、学事出版から刊行されている『月刊生徒指導』（1971年創刊）を分析対象とする。『月刊生徒指導』は、文部科学省職員、大学教員、小中高校教員（退職教員含む）等、教育に携わる多様な立場の書き手によって構成されているため、生徒指導に関する教育言説を把握しやすい。また、各号で特集を組んでおり、当該時期の生徒指導においてクローズアップされている事象を通時的に把握できる。

分析は以下の通りに行った。まず、『月刊生徒指導』のホームページに、2000年7月号から現在までの目次が記載されているので、「特集名」、「特集記事タイトル」、「連載名」、「連載記事タイトル」、「著者」、「著者の性別」をエクセルにてデータ化した。2000年6月号以前については、国立国会図書館オンライン(NDL)にて、同様の情報をエクセルへデータ化している<sup>1</sup>。作成したデータセットについて、テキスト型データを計量分析するためのソフト KH coder を用いて分析を行った。次に、作成したデータセットにおいて、「女」、「男」、「ジェンダー」、「母」、「父」をキーワードに検索を行い、整理した。

教育言説を分析する上で、記事内容を精緻に分析することは不可欠であるが、データセットが膨大なため、まずは記事タイトルを分析することで『月刊生徒指導』全体の実態把握を行うパイロット調査として本論文を位置づけることとする。

## III 『月刊生徒指導』のタイトル分析

### 1 特集名の頻出語

『月刊生徒指導』では、毎号特集が組まれている。その特集名で出現した上位25用語をリストにしたものが、表1である。「生徒指導」が最も出現しており、「生徒」、「学校」と続く。また、「問題」、「対応」、「予防」、「危機」、「防止」といった予防的な生徒指導がうかがえる用語が用いられている。さらに、「いじめ」、「不登校」、「自殺」、「事件」、「禁煙」、「登校拒否」、「非行」といった具体的な事象について特集が組まれることもうかがえた。

### 2 特集記事タイトルの分析

#### (1) 特集記事タイトルの頻出語

各特集で掲載されていた特集記事タイトルにおいて、50回以上扱われた用語を抽出したものが、表2である。特集記事タイトルで頻出する用語は、特集名と同様のものが抽出されている傾向にあるが、表2の上位25用語において、「実践」、「心」、「暴力」、「生活」、「高校生」、「学級」、

「高校」、「調査」が、特集名で抽出された上位25用語以外のものとして抽出されている。特集によって掲載記事数が異なるため、単純な頻出回数のみで全体の傾向を把握しようとすることに留意が必要である。

表1 特集名で抽出された用語の上位25語

	抽出語	回数		抽出語	回数		抽出語	回数		抽出語	回数
1	生徒指導	154	11	対応	21	17	部	11	25	相談	9
2	生徒	54	12	不登校	17	22	課題	10	25	登校拒否	9
3	学校	51	13	自殺	16	22	関係	10	25	非行	9
4	問題	39	14	連携	15	22	教育相談	10	25	保護者	9
5	考える	36	15	いま	14	25	夏休み	9	25	防止	9
6	教育	35	15	予防	14	25	危機	9			
7	教師	33	17	年度	13	25	禁煙	9			
8	指導	32	17	計画	11	25	高校生	9			
9	いじめ	23	17	校内	11	25	視点	9			
10	子ども	21	17	事件	11	25	親	9			

表2 特集記事タイトルにおいて50回以上出現した用語

	抽出語	回数		抽出語	回数		抽出語	回数		抽出語	回数
1	生徒	588	16	実践	109	31	家庭	71	46	活動	58
2	生徒指導	496	17	心	104	32	取り組み	71	47	授業	58
3	学校	360	18	相談	104	33	集団	71	48	理解	58
4	指導	341	19	暴力	91	34	子	70	49	防止	57
5	子ども	277	20	関係	87	35	性	70	50	危機	56
6	教師	261	21	生活	80	36	事件	69	51	喫煙	56
7	教育	242	22	自殺	79	37	保護者	68	52	学校教育	55
8	問題	242	23	高校生	78	38	見る	66	53	地域	54
9	いじめ	176	24	学級	75	39	校内	65	54	意識	53
10	考える	171	25	教育相談	74	40	先生	63	55	児童	51
11	親	129	26	高校	74	41	思春期	62	56	少年	51
12	対応	126	27	調査	74	42	体制	62			
13	連携	121	28	課題	73	43	養護教諭	62			
14	非行	113	29	担任	73	44	中学校	61			
15	不登校	112	30	登校拒否	72	45	取り組む	59			

## (2) 各年代を特徴づける用語

次に、1971年創刊から、10年ごとに時期区分を行い、各年代で特徴づけられる用語を表3にまとめている。当該年代のみに特徴的な語は、**太字・下線**で表記している。1970年代では、「高校生」、「集団」、「自殺」が他の年代と比較しても、特徴的な用語となっている。1980年代では、「相談」、「登校拒否」が特徴的である。1970、80年代という区分で見ると、「生徒指導」は用いられず、「非行」、「問題」、「考える」が特徴的な語として挙げられる。1990年代に入ると、「非行」、「問題」、「考える」は特徴語として抽出されなくなる。1990年代で特徴的なものは、「心」、「生活」、「家庭訪問」、「部(≒生徒指導部)<sup>2)</sup>」となっている。2000年代では、「実践」が特徴語として抽出されている。2000、2010年代という区分では、「生徒指導」、「対応」、「不登校」、「連携」がそれまでの時代区分に比べて特徴的といえよう。最後に、2010年代では、「学級」、「関係」、「発達障害」、が特徴語となっている。









りをみせている。また、もう一つの特徴語である「登校拒否」は、「登校」と関連がみられる。その他に特徴的なものとして、「非行」は1970年代に「少年」、「集団」と関連していたが、1980年代になると「集団」との関連がみられなくなる。そして、「家庭」、「取り組む」と関連していた「暴力」が、「校内」、「先生」、「対処」、「事件」と関連するようになる。

図4は、1990年代の『月刊生徒指導』における共起ネットワークである。中心となる語はこれまで扱った年代と同様であるが、関連する語に違いがみられる。これまで関連の強かった「生徒」と「指導」は弱い関連となり、「生徒」は新たに「聞く」、「話」と関連するようになる。「学校」は、「行事」と関連するようになる。「指導」は、「生活」と関連する。1980年代では他の語との関連がみられなかった「子ども」は、「自殺」と関連するようになる。1990年代に初めて中心的となる「親」は「子」と関連し、他の語から独立している。最後に、「いじめ」は「自殺」、「問題」と関連している。

特徴語である「心」、「生活」、「家庭訪問」、「部（≒生徒指導部）」についてみてみよう。まず、「心」は「ネットワーク」、「危機」と関連している。ただし、この三語で構成される特集記事群があるため、留意が必要である。次に、「生活」は、1980年代でも関連のみられた「指導」だけでなく、「調査」、「基本」、「学年」と関連する語が増加している。そして、「家庭訪問」は、「養護教諭」と「登校拒否」に関連している。最後に、「部（≒生徒指導部）」は、「ポイント」、「通信」と関連している。「調査」と関連する語は、「問題」、「登校拒否」、「生活」となり、「暴力」や「自殺」といった1980年代の特徴はみられなくなる。その他に特徴的なこととして、犯罪行為に関わるような語は、「盗難」が新たに出現し、他の語は姿を消している。また、「養護教諭」と関連する語が、「相談」、「活動」から「家庭訪問」へ変化し、「相談」は新たに「電話」と関連するようになる。

図5は、2000年代の『月刊生徒指導』における共起ネットワークである。中心となる語から順にみていこう。「生徒指導」は、「計画」と関連をしている。また、「学校」は、「対応」、「危機」と関連するようになる。その「対応」は、「危機」、「学校」、「不登校」、「いじめ」と関連しており、これまでの年代と比べても、関連対象が多様になりつつ、関連する語はより明確になっている。そして、「教育」は、「薬物」、「乱用」、「防止」との関連と、「特別支援」との関連がみられた。「教師」や2000年代の特徴語である「実践」は、関連の程度が弱く、出現していない。さらに、2000年代以降の特徴語である「連携」は、「関係」、「機関」、「家庭」、「スクールカウンセラー」との関連がみられた。最後に、1990年代まで頻出していた「養護教諭（または保健室）」や特定の犯罪行為、「自殺」といった用語は、出現しなくなっていることも特徴として挙げられる。

図6は、2010年代の『月刊生徒指導』における共起ネットワークである。中心となる語からみると、「生徒指導」は「体制」と関連しており、他の語から独立している。また、「子ども」は、「夏休み」、「発達障害」と関連している。そして、「いじめ」は、「防止」、「対策」、「推進」、「問題」と関連している。さらに、「保護者」は、「連携」、「対応」と関連し、「不登校」は「考える」、「対応」、「見る」と関連していることがわかる。次に、2010年代の特徴語である「学級」、「関係」、「発達障害」をみていこう。「学級」は、「高める」、「経営」、「夏休み」と関連している。「発達障害」は、「生徒」、「子





#### (4) 小括

ここまで、『月刊生徒指導』の特集記事タイトルを分析してきたが、「生徒」、「子ども」、「指導」、「生徒指導」といった用語は、全ての年代において中心的に扱われている。また、「教育」、「学校」、「教師」、「いじめ」など、全ての年代ではなくとも、複数の年代に出現する用語も存在する。こうしてみると、『月刊生徒指導』の特集記事タイトルで扱われる用語やトピックは一貫している、あるいは、一定の傾向が存在するように見えるが、共起ネットワークで確認してきたように、各年代によって共起する語群は異なっていることから、各年代によって「セットで語られるパートナー」を変えながら教育言説が構築されている可能性がある。

次に、「自殺」、「登校拒否」、「心」といった当該年代のみの特徴語が存在していた。ただし、特徴づけられていないからといって、当該語が存在しないわけではない。「自殺」は1970年代にのみ現れているのではなく、1980、90年代においても共起する語を変えながら出現している。扱われるトピックは似ているが、それぞれ関連する語を変えながら語られている。

最後に、中心的な語や特徴語として抽出されていないが、「養護教諭」のように、各年代の共起ネットワークで「セットで語られるパートナー」が変化していく用語が、複数みられたことも特徴として挙げられる。

### 3 ジェンダーの視点による分析

本節では、『月刊生徒指導』で扱われた特集タイトルや記事タイトルを、「女」、「男」という記述に着目して分析する。

#### (1) 特集記事の著者性別

『月刊生徒指導』の特集記事は、誰が「書き手」や「語り手」となっているのか。著者の性別を一覧にしたものが、表4である<sup>4</sup>。著者の75.4%が男性であり、『月刊生徒指導』は主に男性によって担われている。

表4 特集記事における著者性別の割合 (n=4875)

男性	75.4%
女性	17.1%
団体	2.7%
不明	4.7%
資料	0.1%

#### (2) 特集で扱われる「女」、「男」

## 『月刊生徒指導』のタイトル分析（寺町晋哉）

まずは、特集において「女」や「男」がどのように扱われるかをみていこう。表5は、特集において、「女子」や「女性」を直接扱ったものの一覧である。

表5『月刊生徒指導』において「女」が特集で扱われた特集記事一覧

年度	月号	特集タイトル・タイトル	タイトル
1975	2	女子生徒の問題性とその指導を考える	学校での「男女の役割」指導の問題点
			主体性を伴う人間像の獲得を
			「主婦」志向からの自立
			男性依存社会の蟻地獄への道標 少女マンガによせる少女たちの夢
			非行にみる女子生徒の問題性 最近の女子非行の特徴から
			インタビュー 女子教育と婦人問題 志をもった女の子に
			座談会 女性の“自立”にとって教育とは
			教師の見方を越えて見なおす 女子生徒の問題は婦人問題である
1977	8	女子生徒をとりまく性の問題	中・高校生をとりまく性の問題
			大久保清事件に学ぶ
			少女たちを性の逸脱行動に走らせるもの
			女子中・高校生の売春の実態と背景
			妊娠した生徒に直面したとき
			ささやかな試行錯誤とその苦悩のなかから
			生の問題としての性を 女性の教師に期待する
1981	11	特集 妊娠した女性との指導をめぐる	〈問題提起〉女子生徒の妊娠という事実をどう受けとめるか
			考え方の多様さの中で-母親の立場から
			問われる一人ひとりの考え
			社会のしがらみと生徒指導の壁
			「性」を指導する一つの視点
			高校生の性に取り組む視点
			一人で越えなければならないハードルのはず
			私たちにできること
			「長島先生へ」・「その後のA子」
			子どもを生むことと母親になること
			現実の問題として考えたらどうなるか
			さわやかな高校野球を求めて
			「ああ!甲子園野球」おわびと訂正
青少年非行をめぐる考え方と当面の対応-東京都青少年非行問題対策委員会中間報告 ルポルタージュ 蓬来中学校の実践			
1984	12	妊娠した女子生徒の指導をめぐる	特集 問題提起 妊娠した生徒に卒業・出産を指導して
			特集 ささまざまな議論の中でいま考えるべきこと
			特集 同じく生徒の妊娠に直面して考える
			特集 経験とおとしての学び-K子さんへの手紙
			特集 「高校生の妊娠」問題を越えた課題をも提示
			特集 一人で生きていけるまでは出産を勧めない
			特集 高校生としての限界の中で考えると
			特集 高校生の妊娠-四〇年間の事例から考える
			特集 覆面座談会 妊娠した生徒の指導をめぐる
1984	6	特集 増える女子非行 指導のむずかしさ	性非行論 「不純異性交遊」をめぐる
			女子非行増加の意味
			増加する女子非行の背景
			指導から逃げる非行をもつ女子生徒の問題
			思春期の非行がその後の人生にもたらすもの

年度	月号	特集タイトル・タイトル	タイトル
1986	6	特集 いじめの予防と女子生徒のいじめ事例	いじめへの取り組みの基本的課題と展開—予防と早期発見をめざして
			学年教師集団によるいじめ予防の取り組み—いじめられっ子リストアップ作戦をおとして
			いじめ予防・早期発見のためのアンケートのとり方、生かし方
			女子高生のいじめ事例とその対応
			学級、学年集会を開いて取り組んだ女子のいじめ
			孤立した女子生徒の問題を扱ったLHRの記録
		いじめられて盗みが始まったA子の事例	
		特集 いじめ問題・資料紹介	いじめに起因する事件等の実態調査結果
1987	7	特集 行動的になった女子生徒	少女達の活動性をどうとらえるか
			女性のライフサイクルの変化と女の子
			女の子の揺れる心をとらえ、伸ばす
			生活指導担当教師として、女子生徒にどう対応するか
			鏡の中の少女達—少女のおしゃれ志向の今日の意味
			女子生徒の性と自立
			女子の非行とアイデンティティの確立
			女子指導のむずかしさ—S子へのかかわりをおとして
1989	1	どうとらえる？女の子	言葉の問題から女の子の現在をのぞいてみると
			難解？近ごろのギャルズ・コードを読む
			女の子の恋愛と親離れ
			非行少女の自己イメージ—彼女たちの描くストーリーから
			女子のくずれと私的グループをどうとらえるか
			生き方とかわる性教育の模索
			パワーに頼らない生徒指導の確立をめざして
1997	1	特集 女の子がわからない!	インタビュー/女の子のトラブル解説法—思春期のふつうの女の子の生活と心
			先生に見えない女の子たち
			女の子のトラブルに現れた思春期葛藤
			女の子どうしのいじめ
			女の子たちはなぜ食にこだわるのか 思春期やせ症とは何か
			少女たちのセクシュアリティとジェンダーフリー
			気泡のように発生する女子の問題行動 私の処方箋
			〈児童生徒の覚せい剤等の薬物に対する意識調査報告書〉より

創刊時から定期的に、「女」を対象とした特集を扱っていることがわかる。扱っている内容は、「女子の問題性」、「性」、「妊娠」、「非行」、「女子の実態」である。1997年の特集を最後に、「女」をテーマにした特集はなくなる。

次に、表6は、「女」をテーマにした特集以外の特集記事タイトル及び連載記事タイトルにおいて、「女」が含まれるものを一覧にしている<sup>5</sup>。1997年以降、特集テーマとして「女」が扱われることはなくなるが、創刊時から近年まで「女」をテーマにした記事が継続して記載されていることがわかる。

「女」をテーマとした特集が定期的に組まれる一方で、「男」をテーマとして扱った特集は、唯一「男の子の性教育」のみであった(表7)。ただし、「少年」をテーマとして扱ったものは、複数存在する(表8)。「少年」に「女子」が含まれるのかは内容分析が必要だが、「女子非行」として別途扱われていることをふまえると、「少年=男子」と想定されていると考えられる。仮に「少年=男子」であっても、特集が組まれた量が「女」よりも少ないことに加え、テーマについても「女」と「男」で違いが

## 『月刊生徒指導』のタイトル分析（寺町晋哉）

表6『月刊生徒指導』において「女」がタイトルに含まれた記事一覧

年度	タイトル	年度	タイトル
2013	快活な女子生徒が周りに子から遠ざけられるようになったときの対応	1986	学級、学年集会を開いて取り組んだ女子のいじめ
2012	欠席の目立つ女子生徒。家庭訪問も拒否され、どう関われば	1986	女子非行にみる父-娘関係
2012	女子がグループ化し、さまざまな場面で行動しているときの対応	1986	女子非行にみる母-娘関係
2010	一人の少女と不登校	1986	同題関係と女子非行
2006	女子マネージャーと性別役割分担	1986	家族の全体的状況と女子非行
2006	「うつ」の現状〜子どもの「うつ」と女性の「うつ」	1986	少女達をとりまく性被害-科警研の調査結果から
2004	女子ならではの友情育成	1986	テレクラと女子生徒-その実態と新しい課題
2004	第4次少年犯罪多発期を迎えて〜女子非行・女子犯罪の増加	1986	少女雑誌誌面から性被害の授業へ
2003	女子中学生の暴行事件	1986	生活指導と女子非行
2001	やせ願望の女子中学生	1986	集団関係と女子非行
2000	歯止めのきかない怒り-女子高生たちのリンチ事件	1986	異性関係と女子非行
1999	命なんだよ!シカト、いじめ、反抗の女子グループとの1年間	1986	同性の友人関係と女子非行
1998	女の子のふかつきはどこへ行く	1985	家出を繰り返す女子中学生の指導
1997	部活内の女子のゴタゴタをどう乗り越えたか-学年と顧問が親をも巻き込んで	1984	女子非行増加の意味
1997	ちょっと大気、女の子の人間関係	1984	増加する女子非行の背景
1997	女子高生の亮春深刻化	1984	指導から逃げる非行をもつ女子生徒の問題
1994	女子高校生を持ち物	1984	退学していったある女生徒のかかわり
1994	「女性的一つ」	1984	なぜ女子高校生は結婚に憧れるのか
1993	女性の喫煙の実態と身体への影響	1984	短期間に奏効した女子の逸脱事例
1992	電話で受ける少年少女の性	1983	女性のいじめ
1992	女子マネージャー問題を解消する	1983	女子高生がロッキンにアタック
1991	女子の「仲良しグループ」-劣お互いが成長するグループへの変容	1983	女子生徒の中のいじめ問題への取り組み
1991	「離れた女子生徒」指導法	1982	なぜ女生徒ばかり……
1991	女子高にゲートボール部・他	1982	女にやりたい
1990	女子グループから仲間はずれにされた子	1981	思春期性と心身症-女子生徒の身体反応を中心として
1990	女子高生も土井たか子人気・他	1981	女子生徒の暴力事件
1990	けなげな少女の挫折と自立	1981	女教師の悩み・苦しみ9年間
1989	女性教師にもできる生徒指導とは	1981	〈問題提起〉女子生徒の妊娠という事実をどう受けとめるか
1989	女子の指導と生徒理解	1981	女と母のあいだ
1989	中学校「非行をくり返す女子生徒」	1979	女子非行にみる退行
1989	女性差別撤廃条約を学ぶ 社会変化のなかで女性による分業変革を考える	1978	女子生徒の性非行-彼女らの考え方と動機を探る
1989	中学校「性に興味を持つ女子生徒」	1978	なぜ少女は家出をしたか
1988	変わった子と言われた女子高校生への援助-学校不適応事例の一経験から	1978	船着いていく家出少女たち
1988	「私のようにってほしくない」-思春期やせ症の少女の手記	1978	女子中学生の暴力事件とその指導
1988	女の子に能力を多様に伸ばしてほしいという熱い思い	1978	女子少年の粗暴犯の現状と社会的背景
1988	三月の実務 男女交際の心配な生徒へのかかわり	1976	ある女子高生たちの自説から考えたこと
1987	対人関係の葛藤の視点からみる女子非行の非行・亮春と無縁な少女を巻き込むテレクラ	1976	女子大学生の喫煙に関する調査
1987	傷つけ合う男女人間関係の事例	1975	女子少年の非行 その傾向と背景
1987	対人関係の葛藤の視点からみる女子非行の研究女子少年の自己意識と指導の方法	1973	子どもへのおとなの加害・女性への男性の加害
1987	少女達の謎-少女にとって非行とは	1972	男女交際について悩む生徒
1987	対人関係の葛藤の視点からみる女子非行の研究で親少女の「保護」と「人権」	1971	女子高校生の非行
1987	対人関係の葛藤の視点からみる女子非行の研究親への教育的働きかけと「生徒指導」	1971	女子高校生の粗暴非行
1987	女子高生のマネージャをキョウ・他	1971	女子高校生の万引き非行
1986	女子高生のいじめ事例とその対応		

みられた。「性」や「非行」は双方ともに取り上げられているが、「実態」に関しては「女」のみの取り扱いであり、タイトルの見出しも「わからない」「どうとらえる？」に代表されるように、「得体の知れないもの」として「女」を位置づけていることがうかがえる。

また、特集以外の特集記事タイトル及び連載記事タイトルにおいて、「男」がタイトルに含まれていたものを表9に示している。「女」と「男」で記載量が大きく異なっており、「女」をタイトルに含む記事が「男」のそれに比べ、約4.5倍の記事数となっている<sup>6</sup>。興味深いことに、1997年の「女の子がわからない」以降、特集名から「女」や「男」は一切扱われなくなる。

表7『月刊生徒指導』の特集において「男」が特集で扱われた特集記事一覧

年度	月号	特集タイトル・タイトル	タイトル
1987	10	男の子への性教育	インタビュー 男の子への性教育をどう考えるか
			いのちの電話からみた一〇代一男の子の性
			男の子への性教育-産婦人科医からの提言
			泌尿器科を訪れる男の子達の性の悩み
			保健室で語られる “男の子達の性、への対し方
			男の子達の性欲と性教育の課題-全寮制男子校での子ども達とのつき合いから
			アンケート 性教育の現場から男の子への性教育を考える

表8『月刊生徒指導』の特集において「少年」が特集で扱われた特集記事一覧

年度	月号	特集タイトル・タイトル	タイトル
2005	5	青少年に広がる薬物乱用問題	少年による薬物乱用の現状と対策について
			発達の過程からみる10代の薬物乱用について
			薬物乱用問題における学校での指導とはなぜ子どもたちは薬物に手を出してしまうのかー
			私が薬物を手にしたキッカケーいま振り返って思うことー
2003	11	統廃する少年非行とその対応	平成15年上半年における少年非行等の概要について
			少年非行に対するサポートチームの取り組みについてー平塚市(神奈川県)におけるサポートチームシステムー
			不登校児童生徒等の居場所づくりをめざしてー北谷町での事件を普遍的な教訓としてー
			広島県の問題行動への取り組みについて
			非行予防エクササイズ
少年非行とゲーム脳の見えにくい関係			
2002	4	【第2特集】 改正少年法を読む	少年法改正の概要
			少年法改正と生徒指導
			【提言】学校の危機管理とCPIプログラム
1987	12	青少年の精神的危機 自殺予防シンポジウム横浜大会の記録	全体集会講演 青少年の自殺とマスコミの影響
			学校場面における精神的危機
			親子関係と精神的危機
			青年期の自殺と精神病理
			精神保健とコミュニティ
1977	2	統廃する少年自殺と少年たちの“いま”“未来”	統廃する子どもたちの自殺を生み出したもの
			子どもにとって未来とは
			おとなになりたくない子どもたち
			作文にみる子どもたちの心
			中学生の気持一死・家出・未来(中学生の作文から)
			同世代の若者として思うこと
			試行錯誤の体験で心に響を持たせる
			自殺をめぐって
1977	10	非行観の再検討 少年非行をどうみるか	非行原因論の検討
			非行生バイキン論批判ーひとつの非行論として
			少年非行をどう見るかー変化するものとしなれないものと
			“発達障外 非行生論”について
			“非行生宝論”について、いま
			精神的「自然破壊」の状況を考える
			非行観の再検討

表9『月刊生徒指導』において「男」がタイトルに含まれた記事一覧

年度	タイトル
2014	数人の男子が、廊下でボールを蹴って遊んでいたときの対応
2008	スカートをはいた男子生徒の処遇
2003	男子も「さん」で…「君」は廃止
2002	男勝り○負い目
2001	男子の性への目覚め
1995	性--こころへのアプローチ男たちはなぜ勃起不全になるのか
1995	性--こころへのアプローチ8 結婚をためらう男たち
1994	「大人の男」がわからない
1993	なぜ男子は学校でクソができないのか
1993	男もつらいヨ
1991	男子の入学で校歌の一部を変更・他
1986	思春期やせ症(男子の神経性食思不振症)
1985	男子中学生丸刈り合法判決の問題点
1985	非行歴のある男が自立するまで
1985	家出を繰り返す男子高校生の指導
1984	中学三年男子
1984	過呼吸症候群・男子の例
1982	男の性はつくりもの
1979	男子生徒の性の問題
1972	性について悩む生徒-男子の自慰の問題を中心に

## IV まとめ

本論文では、二つの検討課題を設定し、『月刊生徒指導』を分析してきた結果、以下のことが明らかとなった。第一に、『月刊生徒指導』において用いられる用語は、どの年代を通じても共通するものが存在する。ただし、扱われる用語は同じでも共起する語は異なっているため、テーマは異なっている可能性がある。また、各年代に特徴的であった用語も存在しており、年代ごとに着目されるテーマやトピックが存在することが示唆された。

第二に、『月刊生徒指導』において、「女」と「男」をテーマにしたものが多数存在し、両者を区別して論じながら、「女」が多く語られていることが明らかになった。男女問わず問題視される「非行」「いじめ」などのテーマも、わざわざ「女子」を冠にしたタイトルを設けている記事も存在する。「女」を別にして語るということは、「男」を語るものとの間に、なんらかの相違点が存在する可能性がある。そして、興味深いことに、1997年までは頻出していた「女」をテーマにした特集が一切なくなり、また、「女」をタイトルに含む記事もそれまでと比較すると減少している。

本論文はパイロット調査として位置づけたため、記述的なものとなってしまった。今後はより詳細な内容分析を行い、生徒指導における教育言説をジェンダーの視点から明らかにしていく必要がある。

\*本論文は、JSPS 科研費 JP17K14020 の助成を受けたものである。

## 引用参考文献

『月刊生徒指導』公式ホームページ

<http://www.gakuji.co.jp/magazine/seitoshido/index.html>（最終閲覧日2018/11/3）

樋口耕一2014『社会調査のための計量テキスト分析』

今津孝次郎、2010、「教育言説を読み解く」、今津孝次郎・樋田大二郎編『続・教育言説をどう読むかー教育を語ることばから教育を問い直す』、新曜社、pp.1-23.

今津孝次郎・樋田大二郎編、2010、『続・教育言説をどう読むかー教育を語ることばから教育を問い直す』、新曜社.

木村涼子、1999、『学校文化とジェンダー』勁草書房.

氏原陽子、1996、「中学校における男女平等と性差別の錯一二つの『隠れたカリキュラム』レベルから」『教育社会学研究』58: 29-45.

氏原陽子、2003、「ジェンダー・フリーの知識とジェンダー化の経験の葛藤ー生活世界の視点から」『子ども社会研究』9: 60-72.

---

<sup>1</sup> ただし、「特集名」が記載されていないものも存在するため、特集記事の内容が類似している場合は



- 「仮特集名」、特集記事の内容から判断できないものは「特集名不明」としている。
- <sup>2</sup> 「部」は、ほぼ「生徒指導部」として用いられている。KHcoderでは、単語ごとに計量分析を行うため、「生徒指導部」といった熟語を「生徒」、「指導」、「部」として抽出する。熟語として判別させるよう事前に手続きすることは可能であるが、本論文では「生徒指導」を一まとまりの語として予め設定しているため、自動的に「生徒指導」は抽出されてしまう。そのため、生徒指導部は「生徒指導」、「部」として抽出されることになり、このような表記となっている。
- <sup>3</sup> 中心的な語であっても、他の語との共起の程度が弱い場合、図には現れていない。共起関係の程度が強い60項目を示している。
- <sup>4</sup> 「不明」は、著者の氏名から性別判断できないものと、著者が記載されていないものである。
- <sup>5</sup> 表5で扱われた記事は除外している。明らかに事例とわかるものは除外している。例えば、「一人の少女の～」や「A子の～」といったものである。後述する「男」も同様である。
- <sup>6</sup> 「男女」を特集テーマにしたものも存在する(表10)。また、特集以外の特集記事タイトル及び連載記事タイトルにおいて、「男女」が記載されていたものを一覧にしたものが表11である。

表10 『月刊生徒指導』の特集において「男女」が特集で扱われた特集記事一覧

年度	月号	特集タイトル・タイトル	タイトル
1976	8	男女交際の指導と考え方	男女交際の“破綻。につきあたって考えたこと”
1976	8		“片思い殺人。は特異ではなかった”
1976	8		非行少年の性の問題から考える性教育への一視点
1976	8		男女交際の現状と指導のあり方
1976	8		スウェーデンの性教育にみるフリーセックス観
1976	8		ガールフレンドが欲しいなあ
1976	8		中学生への性教育と男女交際の指導
1976	8		倫理・社会で行う私の性教育
1976	8		父母と共に考える性の指導
1976	8		愛と性をどう教えるか
1976	8		男女交際とそこでの問題をどう考え指導しているか
1976	8		“人間”にふれる喜びの欠如
1976	8		性教育とそのバランス

表11 『月刊生徒指導』において「男女」がタイトルに含まれた記事一覧

年度	タイトル
2012	男女がなかなか机をくっつけようとしないうときの対応
2008	男子と女子、それぞれの事情
2006	男女共学へのゆらぎ
1997	男女比のバランスを欠くクラス
1996	“このごろの生徒”ウォッチング男子と女子、いま・むかし
1993	子どもの言葉から子どもの心にもふれる男性がトクか、女性がトクか
1990	授業記録 男女交際—未来の男と女のいい関係をつくるために “男女交際はすばらしいこと” ととらえた性教育
1990	見知らぬ男女の出会い
1990	男女が共に学ぶとは—都立高校男女別定員について
1989	素敵な男女のかかわり
1989	高校「男女のグループで旅行」
1989	女と男、性分業のもたらすもの
1989	すてきな男女交際を考える
1989	“男女の人間関係をどう育てるか”という観点で
1988	目が離せない男女二つのグループ
1986	私の学校現場での男女平等教育
1985	探訪スポーツにおける男女平等
1985	探訪(第10回)職業教育の男女平等
1985	非行化の進行の中での家出の位置—男女の比較で
1984	当面の課題として男女に避妊教育を
1981	男性と女性の違い
1979	男女交際は非行につながる
1976	「こころの電話」にみる中・高校生の男女交際の意識と行動(II)
1976	生活の中の中学生像 現代っ子と男女交際